
孤独な王様

aibis

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

孤独な王様

【NZコード】

NZ8290

【作者名】

a i b i s

【あらすじ】

頂が高いほど人は孤独になっていくのかな?

(前書き)

二次創作ですので、原作のイメージを大事にしたい、はたまた嫌悪する方はご遠慮願います。

「本当に駄目だと思ったことは必ず失敗に終わるんだよ。」

毎回恒例となる会長からの一言。その日の内容を決定付ける余計な言葉だと言える。現に役員達の中には、またかとうんざり顔、面倒くさいと眠り顔、次から次へとと呆れ顔、兎に角精彩を欠いた表情が並ぶ。それでも話を聞いてあげるのは子供に対する大人な対応。といふことで反応をしてあげようつじやないか。

「では逆にですよ、絶対大丈夫だと思えることは成功するんですかね？」会長

JJの人は、どつかからか持つてきた受け売りの言葉を、ただカッコイイからという理由で引用するお子様だからな、話を広げるのにお兄さんに任せなさい。生暖かい目を向けながらキャッチボール。

「その顔気持ち悪いよ。」

「ヒドい？」

はい。いきなりボールがそれました。中身のないガキのために、それでも愛ゆえ人が折角の親切心を向けてるのに、何たる言い草。

「だつていつものことだし」

アウチツ！追い討ちかい！！

「ねえ」

「お前だからな」

「先輩ですし……」

「それたボールを拾うな！！」

自分を中心に四方でキャッチボールなんて、こんなのだだのイジメじやないか。心に傷を負つた人間の気持ちをアンタらは少しぐらい理解すべきだと、本氣で思うね、

だが、やられはなしの人間じゃないのが、この俺。

生憎と今の状況から言えばポジショニ的にはピツチャ一。チームの要のはずだ。ハーレム王になるべくして生まれた自分の力量で皆を纏めろと暗示してるに違いない。よし。まずは振りかぶつて……

「あの」

「ハーレムハーレムって、普段馬鹿なこといつてるし」

「犬の分際でね。夢見がちならかわいいものだけど、欲の塊つて

「ただの軽い野郎が好かれるわけねえしな」

「ああ。でも、きっと相手が男性でしたら築き上げられますよ。私は是非とも見てみたいですね。逆?ハーレム王国」

投げ出してへ！

ボーグでも構わへん。今すぐチームから抜けてえ！！って、いかんいかん。何を言つてるんだ。ハーレムの皆を置いていくなんてもつてのほか。そのときがきたら皆で駆け落ち。ハーレムは絶対！！少し幻聴が聞こえて鳥肌たつてるが問題はない。もう、一回だ。

「いやですね、皆さん。俺は惚れた女に対して全員等しく愛する自信ありますよ。例えメンバー増えても大丈夫ですから、将来のハーレムメンバーに嫉妬しないで下さい。」

心に響き合ひ最高のストレート。我ながら完璧な気遣い。これでメンバーの不安も解消に向けただろう。

「それでは～今日の生徒会終了」

「「「お疲れ様でした」「」」

「あの～皆さん……」

「ああ～帰ら帰ら」

「最近寒くなつてきたわね」

「バス遅れるぞ」

「待つてよ、お姉ちゃん」

空氣つて一番重要なもののじやない？見えないからつてぞんざいに扱つちゃ駄目なんだよ。なのになんで『空氣みたい』つて言葉が、軽んじられるつて意味で使われなきゃいけないんだろ。

「あつそうだ。忘れてた。」

「んつ？」

視界が少しぼやけるが、会長が戻つてくるのがわかる。
さすがにやりすぎたと反省でもしてくれて……

「んしょんしょん」

ちつとも背を伸ばしホワイトボードを消している姿は正直和む。これだけで全てを許してしまう。そうにはなるが、王としての威厳を保

つためこいで折れるわけには行かないんだ。

「キュッキュッと…うんつ。よし。」

何か書いたのか？

なるほど。口で言つのが恥ずかしいからつて板書するとは。自尊心やら矜持、そんなのもう関係ないね。

「さすが俺のハーレム。全員じゃないのが少し不満が残りますが…」

「みんな待つてよ」

最後まで言わせてもられないのには既に慣れましたよ。
まあ、いいか。それよりもなんて書いてあるか早速確認。

『成功とは人に支えられてこそ。

本当に駄目な奴はきっと最後まで一人つ キりで終わるんだよ。』

「…………えーと。あー。もしかして本日の議題は俺についてなのか
な?あつはつは。ハア」

止めどない涙を拭ってくれる優しさが欲しいと切に願う、初秋。痛
みに心が打ち振るえています。

「ピッチャー返しからのハートブレイク」

(後書き)

短い

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2829o/>

孤独な王様

2010年10月13日07時53分発行